

今月のテーマ

タンパク(煙草)

村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)

アイヌ文化のことをもっとも話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。

嗜

好品の代表として取り上げられることの多い
煙草。いつから煙草が利用されるようになったの
たのかはよくわかっていないようですが、その起源はア
メリカ大陸と考えられています。十六世紀末には日本
も含め世界中に広まったといわれ、北海道でもその時
期の遺跡から煙管が出土するなど、アイヌ文化におい
ても古くから煙草が利用され
てきたことが分かっています。

煙草はアイヌ語でタンパクと
呼ばれ、名前のとおり日本語の
転訛であることからわかる
ように、煙草は葉の状態で本州
から移入された交易品でした。
自家用として畑での栽培もお
こなわれ、乾燥した葉を細かく
刻んで使われた他、乾燥させた
イタドリやブドウ、ヨモギの葉
なども煙草と混ぜるなどして
使ったといえます。

煙草は嗜好品として吸うだけでなく儀礼における
供物や薬としても使われました。病魔を払う儀礼、ハ
ルエオンカミ(供物による礼拝)でカムイ(神)への土
産として、シンヌラップ(先祖供養)でも、先祖が喜
ぶものとして煙草は欠かせないことから我が家のお
墓参りの際にも必ず煙草を供えます。白老に伝わる

そんな特別な煙草ですのでいつも自製のタンパクオ
ブ(煙草入れ)に入れ、金属製の煙管やノリウツギの枝
でつくられるニキセリ(木製の煙管)を差す煙管入れ
と共に携帯していました。煙草入れの多くは印籠型
で、表面には美しい象嵌や彫り文様が施され工芸品と
しても高い評価がされています。



イラスト/ 荘田悠人

話に、煙草を好み、全部灰になるまで吸う癖のあった
男が死んで葬儀の準備中に突然蘇生し、「私は平素煙
草を好んで、皿の煙草が全部灰になるまで吸い尽くす
癖があった。この度死んで祖先の所へ行つたところ、祖
先の神々は(煙草を)供えなかった不孝を怒り、一度家
に帰りこのことを一般に告げ、将来かかる不孝者がな
いようよく注意し、再び直せ
と叱責され、こうして戻つて来
た」と言い残して再び死んだと
いうもの。煙管の火皿に煙草を
少し吸い残すことによつて先祖
に煙草が届くものと考えられ
ていることから、煙草を吸う際
には先祖のために吸い残すこ
とを忘れないようにというこ
とを、生き返らせてまで伝えた
かったというのがすごい話です
が、それだけ煙草は特別だつた
と言えますよね。



今回のテーマは「レラカムイ(風の神)」
本田優子(札幌大学教授)が担当します。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

北海道白老町にOPEN



ウポポイPRキャラクター
「トウレツボン」

- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 荘田悠人(しょうたゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。



イランカラバ
「ごんにはは」からはじめよう。